

燃料タンク錆取り手順

(RSR-2 及び ER-G9000s は再利用も可能です。)

取り外し

脱脂

- 1、燃料タンクを取り外し、タンクに付属している部品を全て取り外しガソリンを抜く。
- 2、タンク内部を洗剤等で洗い油分を取り除く。



タンク内部は錆だらけ↓



RSR-2投入し様子を見ながら時々振り混ぜタンク内全体に行き渡らせる。



タンク内部は錆が完全に取れている。



※錆の程度により時間のかかる場合があります。

シェイク

放置

シェイク

放置

シェイク

放置

シェイク

放置

シェイク

放置

30分～4時間程度

- 5、5分～10分置きに時々振り混ぜ放置する錆が取れるまで数回繰り返す。
- 6、錆の状況を見ながら取れているのを確認し“RSR-2をタンクから廃棄する。

排出

水洗い

- 7、タンクを水洗いする。
RSR-2を排出してからER-G9000sを投入するまでの作業は素早くするのがコツ
※水洗いは満タン⇒排水を5～7回繰り返して完了！

水洗い直後水滴が残ったままER-G9000sをすばやく投入するのがコツ！！

ER-G9000s(ER-G3000)投入

- 8、ER-G9000sを原液～3倍希釈し投入
- 9、5分シェイクし排出
- 10、乾燥して完成。

乾燥・完成！

●結露水対策には「AQUA-C 燃料タンク用」をお使いください

注意：水洗いは満タン排水を5～7回繰り返して行って下さい。少量の水での高圧洗浄では洗浄が不十分です。

ER-G900S を使用し乾燥後に燃料タンク用コーティング剤（塗料）を使用する場合は、金属表面の結露に注意し完全に乾燥した状態で行ってください。（露点換算表湿度 80%以上を参照）結露した状態や塗膜の厚みにムラがあると塗膜が剥離する場合があります。

(RS-R1000 ご使用の場合は RSR-2 を読み替えて下さい。)